

製品名: SYK (リン酸化チロシン 348) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06092**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	82kDa

抗原情報

遺伝子名	SYK
別名	Tyrosine-protein kinase SYK (EC 2.7.10.2) (Spleen tyrosine kinase) (p72-Syk)
遺伝子 ID	6850.0
SwissProt ID	P43405
免疫原	ヒト SYK 由来の合成リン酸化 (Phospho-Tyr348)

背景

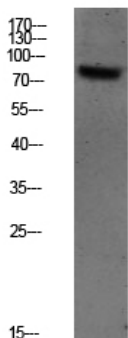
この遺伝子は、非受容体型チロシンキナーゼファミリーのメンバーをコードします。このタンパク質は造血細胞で広く発現しており、活性化免疫受容体と下流シグナル伝達イベントを結びつけ、増殖、分化、貪食など多様な細胞応答を媒介します。上皮細胞増殖

の調節因子であり、ヒト乳癌における潜在的な腫瘍抑制因子であると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2010年3月]、触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。、機能: BCR 刺激応答の正のエフェクター。リンカー領域のチロシンがリン酸化されていない場合はホスホイノシチド 3 キナーゼ依存性経路を介して、または Tyr-348 と Tyr-352 がリン酸化されている場合はホスホリパーゼ C- γ 依存性経路を介して、B 細胞抗原受容体 (BCR) をカルシウムイオンの動員に結合します。このように、Syk の異なるリン酸化は、BCR が細胞内カルシウム イオンの調節に連動する経路を決定できます。、PTM:自己リン酸化されます。、PTM:Tyr-323 のリン酸化は、BCR 刺激によるカルシウム イオン シグナル伝達の負の調節因子として機能するアダプター タンパク質である c-Cbl の結合部位を作成します。、PTM:Tyr-348 と Tyr-352 のリン酸化は、ホスホイノシチド 3-キナーゼ非依存性経路を介して、ホスホリパーゼ C- γ のリン酸化と活性化、およびカルシウム イオン動員の初期段階を促進します。、PTM:BCR 活性化後に CBLB によってユビキチン化され、プロテアソームによる分解が促進されます。、類似性:タンパク質キナーゼ スーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼ ファミリー。、類似性:タンパク質キナーゼ スーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼ ファミリー SYK/ZAP-70 サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 2 つの SH2 ドメインを含む。、サブユニット: リン酸化されると CBL および SLA と相互作用する。SLA との相互作用により CBL と結合し、CBL の破壊につながる可能性がある。リン酸化 NFAM1 と相互作用する (類似性による)。エプスタイン・バーウイルス LMP2A と相互作用する。SH2 ドメインを介して CD79A のリン酸化 ITAM ドメインと相互作用し、SYK の自己リン酸化と活性化を促進する。FCRL3 と相互作用する。、

研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性、B 細胞抗原、Fc イブシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食作用、

画像データ



CACO2 溶解液のウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。